自己紹介（京畿道庁　宋有利）

神奈川県庁の職員の皆さん！はじめまして。
神奈川県の友好交流地域である韓国の京畿道から交流職員として参りました宋･有利(ソン･ユリ)と申します。今年の 8 月 6 日に来日して、もう 4 ヶ月が経とうとしていますが、楽しかっただけにあっという間でした。終わりそうにない長い夏でしたが、いつの間にか街並みにクリスマスの飾りが見えてきて、時間の速さを実感しています。国際課以外の県職員の皆さんにはまだあまり会えていませんが、県庁職員向け韓国語講座や各所属での行政研修が始まると、もっと皆さんと触れ合う機会が増えるだろうと楽しみにしています。

＜公務員と私＞
韓国は 1997 年、通貨危機で IMF(国際通貨基金)から資金支援を受けることになり、いわゆる IMF 時代が始まりました。大手企業から中小企業まで次々と連鎖倒産し、国家的なクライシスを経験しました。学校では、担任の先生が朝礼の時間にクラスの生徒たちに目つぶらせて、“お父さんが会社を辞めた人、静かに手を上げてみて”と調査するくらい父親の解雇で経済的に困る家庭が増えていました。IMF の危機を乗り越えた韓国は、国全体で安定を求める風潮が高まり、定年まで安定した環境で働ける職業として公務員を選ぶ大学生が急増していました。
2008 年のリーマンショックの影響で、さらに公務員の人気は高まって、大学生の大半は公務員を目指して勉強するくらい、社会的に‘安定第一‘という声が大きくなりました。
私は大学生の時に一年だけでしたが、日本の大学に交換留学の経験もあり、成績も悪くなかったので、就職の準備はある程度していたと思いますが、時代の流れにのって公務員の道を選ぶこととなりました。
安定した環境で働けるのも理由の一つでしたが、私益や特定の企業のためではなく、公益を追求して働けることに大きな魅力を感じました。
私の故郷は韓国の広州広域市ですが、その時は一刻も早く就職したい気持ちが大きかったので、比較的採用の規模が大きかった京畿道を目指すことになりました。

＜京畿道庁に入った理由＞
初めて社会人として、また公務員として、10 年間働いた河南(ハナム)市。いい先輩たちと気の合う同期たちに恵まれて、とても楽しい時間をすごせました。
河南市は京畿道の中にある 31 の市の中でも、ソウルと近いながらも漢江(ハンガン)があり、自然に囲まれた環境で、住みたい都市に挙げられるほど住み心地の良いところでした。
2017 年、河南市が「アジア-太平洋スティービーアワーズ[1]」で公共の広報部門で大賞を受賞することになり、市長が直接授賞式に参加されることが決定されました。以前一緒に働いていた、当時の河南市役所の広報チーム長に、市長に同行する通訳として日本出張に一緒に行

---

[1] アジア-太平洋スティービーアワーズ(Asia-Pacific Stevie Awards)：　アジア-太平洋地域の 22 ヵ国の中にある、あらゆる組織が参加できる国際的なビジネス対象プログラムで、革新的なビジネス成果をやり遂げた企業、企業人に授賞する国際的な賞

ってほしいと頼まれて、仕事で日本に行くことになりました。2006 年、大学時代、交換留学生として行って以来初めて行く日本でした。公式の場での通訳ではなかったのですが、日ごろから仕事関係で日本語力を活かしてみたいという希望があったので、その日をきっかけに大学の時に勉強していた日本語を仕事に繋げてみたいという気持ちが出てきました。河南市は日本との国際交流をしていなかったこともあって、京畿道に転入して交流職員として日本に行きたいという夢を抱くようになりました。

＜機会がある京畿道！交流職員に選ばれるまで＞

京畿道の行政のスローガンは「変化の中心、機会の京畿」です。このフレーズには夢をもってそれに向かって努力する者にはチャンスの道は開いているという意味が含まれています。京畿道の代表的な政策で 2023 年から始まった「芸術人機会所得」というものがあります。機会所得とは芸術的な価値を生み出す仕事をしながらも、その価値を社会的に認めてもらえなかった芸術家に対して、芸術活動を諦めずに続けられる機会を提供し、芸術の価値自体を認める社会的雰囲気を作ろうとする京畿道ならではの政策です。

京畿道に居住する芸術活動証明有効者のうち、個人所得が中位所得 120%以下の芸術家に年間 150 万ウォンを支給する全国最初の制度で、経済的な問題で作品活動を続けられないことがないよう、創作の機会と権利を保障するために作られました。芸術家が勇気をもらって創作活動を続けることで、京畿道民は幅広く豊富な文化生活を楽しむことができます。

去年、芸術の分野から始まった機会所得制度は、今年は農漁業にまで広まりました。受給者にとっては、社会的な価値を創出する仕事を諦めずに続けられるモチベーションに繋がり、それは結局、道民の一人一人の生活にも繋がります。

色々なチャンスが溢れる京畿道！機会の京畿は私にも手を伸ばしてくれました。

日本に交流職員として来るのは大きなチャンスでありながら、生活の全てが変わる大きなチャレンジでもありました。久しぶりの日本語で大丈夫かなという不安もありましたが、自分の居場所と少し離れて京畿道と一緒に旅に行くんだと思ったら、なぜが勇気が出てきました。また、学生の時に来ていた日本とどれだけ変わっているのかが気になってワクワクしていました。住みたい街ランキング一位の神奈川県、横浜市！そこで一年間働きながら生活できるとは夢のようなことでした。

私より優秀な応募者がいたはずなのに、棚から牡丹餅で日本に来られたので、かけがえのないこの一年を大切に過ごしたいと思っています。

自分にとっては、学生の頃に戻ったような気持ちで、日々新しい学びの連続です。街並みの看板を見ながら新しい単語を覚えたり、皆さんの仕事ぶりを観察しながら知らない単語を探したりするのも楽しみの一つです。満員電車の中で圧迫を感じながら、流れるアナウンスを聞くと、あ！日本に来てる！と実感します。グループの皆さんと何気ないことで笑ったりする毎日が愛おしいです。

この気持ちを大切にしながら、皆さんと一緒に来年の 7 月まで頑張っていきたいと思います。これからもよろしくお願いします。